

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 美野の里
(ユニット名)	1・2
所在地 (県・市町村名)	南河内郡太子町大字山田2558番地
記入者名 (管理者)	辻 和広
記入日	平成 20 年 7 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に加えて、下記のとおり理念を掲げている。 笑顔 笑いの絶えない、あたたかい場所にします 心 認知症や介護の理解を深め、安心して生活していただける場所にします 交流 地域に出かけ、また、気軽に足を運んでいただける場所にします	理念に向かったサービス提供ができるよう、地域に出かける行事の計画や、ボランティアの受入等を行っている
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の周知については職員会議や研修などの場を活用して、その内容の意義についての重要性の認識を高めながら、周知に努め、各人が自ら実践、行動できるよう努めている	更に個々の意識の向上を図りたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	高齢者が地域で家族と共に暮らし続けたいというニーズは、高いものがありこれを関係住民に啓発する事は当然の事である。しかし、グループホームにその役割を託し、又それを評価素材とする理由が判りにくい	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員について、ご利用者の散歩に同行した際に出会った近隣の方々には、必ず挨拶するよう心がけている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣地域で開催されるイベントには、積極的に参加している。 一方、地域の老人会や、ボランティア団体等の訪問や慰問も積極的に受け入れている	<input type="radio"/> 地域が遠く(場所も感覚も)これを近づけていきたい。太子町子供の安全見守り隊に入る予定

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症のノウハウを持っている関係から、地域の高齢者の方々に太子町が展開している介護健康講座等において、認知症の予防をテーマに講師をしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の内容については、その一つ一つの意義などを真摯に受け止め、今後の施設運営の目標とすべきであると考えている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度から設置義務となった「運営推進会議」について、その意図するところが理解できず、また、監督庁に伺っても、明確な指導内容が示されず、開催はしているものの、運営には困惑している。		今年度より、行事への参加呼びかけを行っており、更にいろんな側面を見てもらい、意見を聞かせていただこうと考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	監督庁である太子町の担当職員とはコミュニケーションを密にして頻繁に情報交換を行っている		行政との連絡は密の行い、新しい情報なども早くに仕入れることにしている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政が担当する「地域権利擁護事業」や民法の改正により制度化された「成年後見制度」について、適用が必要なケースに関しての一定のアドバイス等が出来る体制は有している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者等への虐待については、大社協等が実施する外部研修会等に参加した職員が、そこで得たノウハウや知識を活かしながら、施設内職員で構成している「虐待防止委員会」のメンバーと共に「虐待防止マニュアル」を作成し、これを活用した職員研修会も実施している		絶対に起こってはいけないと思っているし、おこさないための取り組みは大切であると考えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用契約の際は、契約書と共に、重要事項説明書などを手渡ししながら、これを詳しく説明した後、内容や疑義に関しての意見や質問も受ける時間を設けている。そして、入居者及びその家族が、十分に理解し納得した上でこれら契約書や重要事項説明書の署名、捺印をしてもらっている	重要事項説明書は出来るだけ見やすく、ご本人やご家族にも読んでもらいやすく、わかりやすくを意識し、作り変えている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、不満、苦情の受理については、特に制度化はしていないが、日常の職員とのふれあいの中で受けることとしている。なお、これら入居者からの意見等については、特徴を踏まえながら真意を汲み取って対応している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの暮らしぶりや、健康状態と共に、金銭の同行についての家族への連絡は、定期的(3ヶ月)に書類により実施している。当然、健康状態が急変した場合はその都度電話により連絡している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員とご家族の距離を縮めるよう密に連絡をとり、小さなことでも聞かせていただけるような関係作りに取り組んでいる。また、今年度よりご家族との面談を実施しており、そこでも様々な意見交換を行っている。	ご家族の意見は大変重要と考えており、意見しやすい環境や人間関係が重要と考えている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する職員会議において、職員から施設の運営に関する意見や提言を伺う事になっている。加えて、管理者は、年2回の職員と個別に面談を実施し、職場運営等に関する意見交換等を行い、職員からの提案を積極的に受けている	職員にとっても、働きやすい職場(自己実現できる)に近づけていきたいと思っている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	配置基準職員数をベースにししながら、時間帯における業務量の緩急に応じた職員配置に努め、入居者のケアに支障がないように努めている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置、異動は、適材適所とともに入居者本位を最優先としながら行いたいと考えているが、離職者の発生が頻繁に生じた場合は、これらの考えの発揮に苦慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中では勿論のこと、ベテラン職員がリーダーと鳴っての職場内研修を定期的実施し、職員意識啓発に努めている。 (職員のグレードアップは、自らが、向上心を持って自発的に学習に取り組む事により成果が得られることを踏まえ、研修では、このような向上心をはぐくむ事を大事にしたいと考える)	人は宝であり、介護においては特に「人員」ではなく「人材」の確保が最重要と考えている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、近隣の施設が集まる「富田林事業者連絡協議会」に加入して、関係事業者のノウハウも取り入れている。 今後は、南河内グループホーム協会が組織される動きがあり、その際には更に関係事業者との交流を深め、入居者サービスの向上に努めたいと考えている	○ 近隣と協力して情報の共有することは非常に大切と考えている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務から招く管理者や職員のストレスの軽減については、フランクに職員等の悩みを聴きながら、その対応策をアドバイスする等に心がけている。 加えて、職員の業務がオーバーワークとなっていないかを、日常業務を観察する中で、常にチェックしながら、必要があれば改善措置を行って職員のストレス防止に努めている	休みの希望を出来るだけ優先し、気持ちよく仕事出来るよう配慮している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事を通じて、それぞれの職員の自己実現の場である事が認識できるよう、現在社会における介護サービスの価値観や意義について、職員に対しては、種々、アドバイスを行っている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の不安を傾聴し、信頼していただくことが、安定した精神状態の近道と考え、取り組んでいる。具体的には、入所間もない方には積極的に訪室し、ゆっくり話せる環境を作ったり、雰囲気になじんでいただけるようにわざと何度も同じ話をしたりしている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族にとっては「今」が全てであるが、過去から現在・将来にまで話を広げ、どのようなケアの方向で行くのか検討している。面会に来られた時や、必要時は電話にて話を聞いている	ご家族との信頼関係はインテークから終結まで最も大切と理解している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者に対するサービス内容については、出来る限り入居者やその家族のニーズを尊重する事としているが、それが、サービス目的と逆行する場合は、徹底的に話し合っ解決する事としている。 (例)過食症の入居者に対して、家族は、本人が食べ物を欲しがる時は、それに応じて欲しいと、お菓子等を持ってこられるというケースについて		各部署との連携・特に訪問看護ステーション
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接は1度ではなく、事業所に来ていただくことと、家庭に赴き、生活の様子を伺うことは最低限行っている		生活暦を出来るだけ詳しくお教えいただくことや、馴染みの物を持ってきていただくことにしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者は、人生の大先輩との認識は必ず徹底し、いろいろ教えていただいている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からお教えいただく事柄は多く、ご利用者の情報だけでなく、第三者としての視点からもご提案をいただいている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と、ご利用者の関係は、必ずしも良好ではない方もおられるが、入居いただくことで、少しでも良好になればと思っています。そのために、職員が間に入り、第三者として冷静な目で介護を行う上で、ご家族にも冷静な気持ちを持っていただけるよう関わっている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みを継続した生活を送っていただきたいという思いは強いので、昔馴染みの道具を持ってきていただいたり、話をお伺いしたり、ご家族にもご協力いただき、支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士、人と人なので、当然いろんな関係が有り、職員がうまく緩衝材になり、良好な関係が継続できるようはかっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後もボランティアとして来ていただいたり、関係を継続していく用意をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努める		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月会議を行い、ワーカーの認識のずれを修正し、統一したケアに心掛けている。また、日々、申し送りを行い、少しでも変化があれば柔軟に対応できるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の主体性を重視したアセスメントを行い、家族や、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している	○	計画の作成にあたっては、できるだけ多くの意見を聞けるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月会議を行い、ワーカーの認識のずれを修正し、統一したケアに心掛けているとともに、状態の変化には毎日の申し送りで徹底している。またそれを計画書に反映している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとのケース記録の洋式は、記録記載がしやすい時系列方式としている。記録の記載に当たっては見やすく、わかりやすいことに心がけている。当然この記録内容は、介護計画の見直しにも活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者やその家族等からの要望や状態変化に対しては、基本的には、入居者本位を大事にしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや関係者の協力、消防機関の防火指導。救急車の協力はあるが、警察、教育機関等の協力関係は、きわめて弱い状況にある		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族が依頼したケアマネジャー以外の他のケアマネジャーに入居者の情報を提供する事は、プライバシーの侵害につながりかねず、設問の本意の理解が困難である		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換は一定、行っているが、同センターとの協働については、必要が生ずれば行う考えである		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の受診医療機関については、本人及び家族の希望を最大限重視している。尚、施設内で入居者に健康上の異常が見られた際は、嘱託医の受診を受けている		かかりつけ医師には常に連絡を取っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は、これまでの長い人生を、社会や家族の為に懸命に尽くしてこられた方々であるとの認識を持って、それぞれの方々の人格の尊重については、最重視して、個人情報の軽はずみな発言などは、しないよう、職員には、徹底している。入居者の個人情報について、当然のこととして、関係者以外には漏れる事の無いよう、各職員には、記録等の管理の徹	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の生活に対しては、本人の意思がわかりにくい等の場合、複数の投げかけをして、その行動を本人に選択できるように配慮する場合もある。また、本人の意思や、希望が生ずるような声かけにも努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職場の運営方針については、入居者を主役にしており、これは、介護サービス施設運営の大原則と考えている	ご本人だけでなく、ご家族にも面談等の機会に話していただけるよう取り組む
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族とも共同で、できるだけ今までの生活に近くできるように心掛けている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ぬ準備や後片付け等は、従事できる方は、本人の自発的参加の元に、職員と共同で行っている	食器は陶器のものを使用し、見た目も考えている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、ご家族とも相談し、また嘱託医の意見も伺いながら、健康上支障がない内容により、利用していただいている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用者は、出来る限り増加しないように、各入居者毎にトイレの間隔時間の把握や、効率的なトイレ誘導について、職員において調査・検討して、その内容を実践している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の入浴は、週2回を基本としてローテーションを組んで実施しているが、該当日以外の日での入浴を強く希望された場合は、その希望に応じている		入浴時は、できるだけご利用者の満足いただけるまで入っ ていただいている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方、その時に応じて臥床・離床をすすめ、昼であっても、短い時間の昼寝をしていただいたりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	こんな事がしたい という希望をもっといっていただけるような関わりが大切と考えている。しかし、なかなかご利用者から声は上がらず、今現在はこちらからの提案がほとんどである		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、お金を持ちたい希望のある方に関しては持っ ていただいている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気にもよるが、散歩やアクティビティーの一環で、屋上へ出 たりドライブへ出たりしている。また、散歩の希望にも、できる だけタイムリーにお答えできるよう、心掛けている		楽しみの時間は大切と考えている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得て、希望される場所へ行って頂いている。また、外出の機会に、日頃の希望を聞いておき場所を決め ている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあるときは必ず対応している。希望のない方には現在何も出来ておらず、課題となっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	広報誌など利用し、訪問を呼びかけたり、特に行事を行うときには電話にても声をかける また、入居者本人から家族等への電話や、手紙については、希望があれば対応できる		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	従事職員には、虐待となる身体拘束に該当する行為の周知を虐待防止マニュアルで行い、これらの行為は、厳に行わないように徹底している(11を参照)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の居室の扉には、鍵をかけていない。施設玄関の出入口は、グループホーム入居者の特徴等を配慮して、電子キーを採用している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目で確認することが全てではなく、耳で聞くことも活用しプライバシーに配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状況に応じた対応をしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に向けた取り組みとしては、会議の場での話や、研修会等で行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	CPR訓練を始め、看護師による応急処置の方法など定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時を想定した避難訓練は、消防署の指導の元に、定期的実施している。又、地域の消防団との連携にも努めている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来るだけご本人の希望に添った生活を送っていただきたいので、それを実現するにあたってのリスクは事前に説明し、納得いただいている		介護の方針を変更する際は必ずそのリスクも話している
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調については、食事摂取量や排泄状況等の記録を行いながら、異常発見等に努めている。そして、体調の異常が感じられた際は、直ちに、当施設診療所の看護師が対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表をまとめ、すぐに確認できるようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排便については、実績の記録を行っており(73参照)、これが、数日間実績が無い便秘気味の場合は、水分補給を行いながら、排便を促している。尚、水分によっても、排便がない場合は、浣腸等により排便を促すこととしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯をはずして洗浄と、うがいは毎食実施している。必要な方には歯科受診をおすすめしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士と連携して、それぞれの入居者の体重等も配慮しながら適正な栄養摂取や水分補給等に努めている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策について、グループホームとしては、施設各所属職員で構成する感染症対策委員会の委員に職員を参加させ、そこで確認された感染症予防に関する注意事項等を全職員に対して実施の徹底を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、調理委託業者との契約において、食中毒の防止に徹底を帰することとなっている。とくグループホームが行っている盛り付けや食器の洗浄等の作業前には、職員はもとより、これらの作業に参加する入居者には、石鹸での手洗いの励行を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、明るく、華やかな雰囲気作りや来所者が心をやわらげていただけるようプランターで四季の花を栽培している。玄関の扉は、透明ガラスであり、外来者が自由に入る事が出来るようになっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備はその時、その方に合わせて行っており、特に空調は、効き過ぎないように配慮している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の共用の場所としての代表的な談話室は、入居者同士の触れ合いの場所として利用できるようにソファを配置している 一人で過ごされる際の各人の居室は、扉を設置しており、プライバシーは守れるようになっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に対する不安を和らげる事を期待して、とりわけ、入居時は、それまでの生活で使用していた家具や生活用品については、施設生活でも継続して使用するよう促している。併せて、これら家具の配置についても、これまでの状況に出来るだけ近づけるように工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室を始めとした施設各室の換気については、基本は、空調設備を活用して行っているが、居室については、ベランダ側ガラス扉を開放して行っている。 なお、冷暖房の温度調節については、過ぎない事を基本に、入居者の状況に応じ、臨機応変に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はほぼバリアフリーなので、自由に歩いて回っていただける		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が時として、影から助け舟を出し、出来るだけ一人でしていただけるよう配慮している		介助の手を出しすぎないことを大切に考えている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	歩行の障害となるような、危険なものは排除し、できるだけ好きな時に出ていただき、職員も安全には配慮しつつも見守り程度にしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「理念を意識したケア」というと、現場ではアレルギー反応が起こります。そこで、毎日を楽しみ過ごすこと。そのことが理念「笑顔」につながり、楽しく仕事をすることが向上心につながり、「心」につながると考えています。そんな職員たちになれば、地域からも一目置かれ、頻回に「交流」も可能であると。つまり職員が毎日楽しく仕事をすること。そこに力を入れています。